



RSウイルス感染症の 予防接種が始まりました

生まれる前からできる予防

母子免疫ワクチン



RSウイルス感染症とは

RSウイルスは乳幼児に呼吸器症状を引き起こすウイルスで、2歳までにほぼ全ての乳幼児がRSウイルスに1度は感染するとされています。

感染すると発熱、鼻汁、せきなどの症状が数日間続き、一部では気管支炎や肺炎などの下気道症状が発症します。初めて感染した乳幼児の約7割は軽症で数日のうちに軽快しますが、約3割はせきが悪化し、呼吸困難、さらに細気管支炎の症状が出るなど重症化することがあります。

母子免疫で赤ちゃんを守る

本年度から、母子免疫ワクチンの定期接種が始まりました。妊娠中に接種することで、乳児が出生時からRSウイルスに対する予防効果を得ることができます。接種期間が限られているので、早めにご検討ください。

対象者	妊娠28週0日～36週6日の妊婦
自己負担金	無料(全額公費負担)
接種回数	妊娠ごとに1回
接種ワクチン	母子免疫ワクチン (ファイザー社の組換えRSウイルスワクチン「アブリスボ®」)
接種場所	邑楽郡、館林市、太田市、足利市の実施医療機関 ※まずは妊婦健診を受診している医療機関にご相談ください。 県外の医療機関の場合、接種前に保健センターにご相談ください。
予診票の受け渡し方法	接種には町が発行する予診票が必要です。 予診票の受け渡し方法は妊婦届出日より異なります。 ①妊娠届出が3月31日以前の人▶3月末に郵送 ②妊娠届出が4月1日以降の人▶妊娠届出時に手渡し

あわせて
ご確認ください



▶高齢者肺炎球菌ワクチン

定期接種で使うワクチンが変わりました

定期接種で使用するワクチンが変わり、これまでより高い有効性が期待できるようになりました。

高齢者肺炎球菌
ワクチン

23価肺炎球菌莢膜
ポリサッカライド
ワクチン



沈降20価
肺炎球菌結合型
ワクチン



厚労省HP

▶ヒトパピローマウイルス感染症ワクチン

定期接種のワクチンが一択に

近年のワクチン接種状況などから、定期接種で使用するワクチンは1つになりました。

ヒトパピローマ
ウイルス感染症ワクチン
(子宮頸がん予防ワクチン)

●2価(サーバリックス)
●4価(ガーダシル)
●9価(シルガード9)
のいずれか

